



# 東海道中膝栗毛

赤坂並木から卯塔場まで

弥次郎兵衛と喜多八は、上方に向かって呑気な旅を続けている。赤坂並木（東海道五十三次の36番目の宿場「赤坂宿」／現在の愛知県豊川市赤坂町）を通りかかると、酒徳利を下げた子供が通る。これの一つ目小僧と間違えて、こらしめようと打ち叩いていると、その親爺が現れ「わが子に何をしやがる」と弥次郎兵衛の首をしめ、弥次郎兵衛は気絶をしてしまう。親爺は身ぐるみをはぎ、そばにあった経帷子を着せて立去る。息を吹き返した弥次郎兵衛は自分が死んだと思い、嘆き悲しむのであった……。

生の新内節で送る  
弥次さん・喜多さんの



原作：十返舎一九

構成・監修：両川船遊

出演：結城座人形遣い

新内多賀太夫（弾き語り）

江戸糸あやつり人形

## 結城座

042-322-9750

結城座は江戸時代の寛永2年(1635年)に初代結城孫三郎が旗揚げ、現在、国の記録選択無形民俗文化財および東京都の無形文化財に指定されている伝統ある「江戸糸あやつり人形」劇団です。歴史ある「古典公演」の他に、書き下ろしや翻訳による「新作公演」を上演しています。



結城座HP